

本学学生と保護者の皆様へ  
新型コロナウイルス感染症に関する学長メッセージその24

本学学生の皆さん、保護者の皆様、如何お過ごしでしょうか。

前回1月17日にメッセージ23を出してからまだ2週間ではありますが、その後も状況は刻々と変化していますので、本学では1月28日に危機管理対策委員会を開催して、対応を協議しました。委員会の決定に伴い、学生の皆さんに改めて重要なお願いがあります。以下にまず要約を示します。

**【重要!!】学生・院生の皆さんの行動制限について（2月1日～2月28日）**

本学の感染対策の基本は次の3項目で、行動制限はレベル2（警戒）です

- (1) 会食・カラオケを回避する
  - (2) マスクを常に装着し、口・鼻に触れない
  - (3) 健康観察と行動記録を継続する
- ① 学内入構は原則禁止です（学科長・専攻長に申請し、許可を得た場合は可能です）
  - ② 「緊急事態宣言」および「まん延防止等重点措置」の対象地域への移動は禁止です（その他の地域への移動も強く自粛を求め、海外への移動も禁止です）
  - ③ 講義・試験は原則メディア対応です（受講が困難な場合は学内で対応できます）
  - ④ 実習・演習も原則メディア対応です（許可を得た場合は対面式も可能です）
  - ⑤ 学外実習は原則県内に限ります（②の対象地域以外は可能とします）
  - ⑥ 学生相談は原則非対面（メール、電話など）で対応します（相談員の判断で、必要な場合は対面も可能です）
  - ⑦ 課外活動（学友会、ボランティア、サークル活動等）は原則停止です（オンラインでのミーティングは可能ですが、アルバイト活動は自粛してください）
  - ⑧ 強化クラブの活動は制限します（活動内容は指導者の指示に従ってください）
  - ⑨ 図書館・学習支援センターの利用は制限します（来館利用は停止し、書籍の貸し出しは郵送で、学習支援センターはメディア利用で対応します）
  - ⑩ 不要不急のイベント等は延期または中止です（オンラインでは実施できます）

1) 本学でも感染クラスターが発生しました！

前回のメッセージで、本学でも感染クラスターが発生した可能性が高いと報告しましたが、1月13日以降、複数の部活動部員を中心に100名を超えるPCR検査陽性者が確認さ

れました。その内 70 名以上が寮生でしたので、寮生全員の抗原検査を実施して寮内の感染状況を確認しながら、寮内で感染を拡大させないことを最優先に対応してきました。感染症対策の大原則は、検査と感染者の隔離ですので、PCR 陽性者は大学が用意した学外のアパートに移動するか、環境を整備したクラブハウスに移動するかを選択してもらいました。寝具や電子レンジ等を用意して生活環境を整え、食事や支援物資を配り、25 日から始まったオンラインでの後期試験に対応できるよう WIFI 環境を用意しました。現在も学生・院生に PCR 陽性者が散発していますが、幸い学生寮内での感染は起きていません。今回の PCR 陽性者は皆、幸い軽症ないしは無症状で経過していますので、10 日間の隔離期間が過ぎた時点で、無症状であり、抗原検査が陰性の寮生は、隔離措置の解除を始めています。

新潟県は 1 月 26 日から、家族以外の濃厚接触者には、保健所による追跡調査を中止し、また陽性者自らが濃厚接触者に通知するよう求めています。オミクロン株の感染力が非常に強く、潜伏期も 3 日と短いので、激増している濃厚接触者の追跡調査ができなくなり、保健所の機能がパンクしたための措置とされています。重症化リスクの高い人たちに集中して対応するためとはいえ、PCR 陽性者が実際に自ら濃厚接触者に報告できるものなのか、現場では戸惑いが広がっていると報道されているのもよく理解できます。本学では、学長が事務局と連携しながら、濃厚接触者か否かを判断することとして、大学が責任をもって対応します。濃厚接触者の待機期間は 1 月末以降、10 日から 7 日間に短縮されました。

こうした中で本学は 1 月 28 日に危機管理対策委員会を開催し、2 月 1 日から 2 月 28 日まで、現行の行動制限レベル 2（警戒）を維持することと決定しました。状況は極めて流動的ですので、随時委員会を開催し、方針を見直すことも併せて確認しています。

今回、本学のほとんどの PCR 検査陽性者は 2 回のワクチン接種を受けていましたが、感染を防ぐことはできませんでした。それでも現行のワクチンには、感染した人の重症化を防ぐ効果は保たれているとされています。これまでオミクロン株の感染は主に 30 歳よりも若い世代が中心でした。このため「オミクロン株は軽症で済む」とか、「インフルエンザ並みだ」という見解が広まっています。確かに、本学でも PCR 陽性者は全員が軽症か無症状で、中等症以上の方はみられません。

しかし、これからリスクの高い高齢者や基礎疾患を持つ人たちに感染が拡大した場合も軽症で済むかは未知数なのです。直近の国内データでは、重症者は増加しつつあり、死者も増加していることがわかります。このような事実をみれば、オミクロン株は「インフルエンザ並みだ」とか、「ただの風邪だ」とはまだ言えないことが理解できるでしょう。「ただの風邪」のために、集中治療室が人工呼吸器をつけた肺炎患者さんで埋まるような事態は、インフルエンザでは起きてこなかったのです。これまでの情報のみで、オミクロン株を軽んずることはできません。

本学の学生・教職員の皆さんは 90%以上が 2 回のワクチン接種を済ませています。それでも学内には接種を受けていない仲間が約 500 人います。本学ではワクチン接種者と未

接種者を区別しないと約束しています。ワクチン未接種者は感染した場合、重症化のリスクが高いため、こうした人たちへの感染リスクを高めるような行動は厳に慎まねばなりません。

## 2) 再度、重要なお願いです

学内でこれ以上のオミクロン株感染拡大は、何としても阻止しなければなりません。感染症対策の基本は、繰り返しになりますが検査と隔離です。可能な限り検査を実施し、陽性者を隔離して、感染拡大を防ぐことが唯一の対策です。今回の厚労省の新方針には戸惑いを隠せませんが、5,000人の学生・教職員の安全を守るために、本学では可能な限り検査と隔離を続けていきます。

ワクチンの追加接種は重症化を防ぐのに有効とされていますし、成人の軽症・中等症には有効な経口薬も登場しています。わが国でも承認されたメルク社のモルヌピラビルは、重症化抑制効果が30%と報告されています。ファイザー社のパクスロピドは実に89%の重症化抑制効果があるとされていますが、まだわが国では承認もされていません。折角の新たな武器ですが、新潟ではまだその恩恵を受けることができません。

こうした状況では、採れる手段は限られてきます。今私たちにできることは、各自がこの危機的な状況をよく理解し、行動を自制することしかありません。感染者と接触しなければ、感染は拡大しないのです。エアロゾル感染を防ぐために常時マスクをしましょう。マスクを使い回すことは避け、マスクの表面には触れないようにしましょう。エアロゾル感染という空気感染に近い感染経路が主なのですから、常に換気を心掛けましょう。オミクロン株の感染力は極めて強く、はしかや水疱瘡のレベルとされています。同じ部屋で一緒に食事をすれば、感染します。

## 3) 今後の見通しについて

新型コロナウイルス対応も3年目に入り、皆うんざりという状況でしょう。オミクロン株の急拡大に伴い、一旦緩めた行動規制も再開せざるを得なくなっていますが、「オミクロン株は軽症で済む」という大方の見解のために、緊張感が足りないように感じています。

すでにオミクロン株の変異株が欧州で確認されているのですが、国内でも確認されました。今後、オミクロン株との置き換わりが進む可能性があります。感染力が2倍ともいわれていますので、新たな変異株にも警戒を怠ることはできません。

今後の見通しはどのようなのでしょうか。幸い、オミクロン株の蔓延を経験した南アフリカ共和国、英国、米国などでは、感染の急激な立ち上がりからほぼ1か月でピークアウトしています。わが国は1月初旬からオミクロン株が急激に拡大し始めましたが、沖縄県や広島県ではピークアウトしていますので（新規感染者数の減り方は鈍いのですが）、わが国も諸外

国と同様の経過を辿るとすれば、2月初旬にはピークアウトするのではないかと期待しているところですが、あくまで期待に過ぎませんが、2月初旬の感染状況を踏まえて、今後の方針を定め、出来ることならば、行動規制の緩和に進みたいと考えています。

本学4年生の皆さんはこれから国家試験や資格試験の受験を控え、極めて大切な時期を迎えます。共通テストとは異なり、感染者に対する配慮を医師国家試験では行わないと通知され、他の国家試験も同様の対応になりますので、追試験はありません。濃厚接触者は無症候で、検査陰性であれば、公共交通機関を使わずに試験場に行き、別室で受験することになります。であるからこそ、今は不要不急の外出は控えましょう。2月初旬に感染動向の目途がある程度はつきりするまでは、行動を自粛し、自室にいきましょう。買い物も最低限で済ませましょう。

学生・院生の皆さんが自ら感染しないように、他の人に感染させないように、これまで以上に注意深く行動する他に、現状で有効な対策はないのです。新潟医療福祉大学の学生であるという自覚をもって、行動してくださるよう改めてお願いします。

2022年1月31日

新潟医療福祉大学学長 西澤 正豊